津奈木

発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話　（代表115番）
編集人　岡松　壮
印刷所　緒方印刷所
八代市通町
電話（八代）② 3117番

熊本県芦北郡津奈木町字平国海岸の一部
妙人鼻より北方を望む
向うに見える島が芦北町の佐敷沖にある二つ島
夏期は中央の島に遊びに行く者が相当ある。
向う一番手前右が平国の横浜、其の先の部落が合串と割刈　（撮影　西　保馬）

次の表をごらん下さい。

事項 / 町名	40年	45年	減	減少率
田浦町	8,059	7,378	681	8.5%
芦北町	16,561	14,975	1,586	9.6%
湯浦町	7,980	7,017	963	12.1%
津奈木町	7,432	6,356	1,076	14.5%

これは去る十月一日行われた国勢調査の結果と、四十年に行われたものとの人口の比較をしたものです。

また、有難くない一等を今回もいただきました。というのは四十年にも、三十五年に比べて九七七人の減で、率は一二%、郡内中減少率の多い方で一等でしたが、今回も前回に上回ってまた一等です。

田浦・湯浦・津奈木は、以前はすべてに肩を並べ、兄たり難く弟たり難くでありましたが、その後の諸条件の違いによって、今日では前表で見る通りの差ができてきました。残念なことです。

人口減少を憂う

町長　鶴田宣尊

本町の場合、女が男より四五六人多いということは、働き盛りの男が出はらっているためのようです。従って津奈木では女・年寄り・子供が残って家業を守っているために、発展を願うても無理なことです。

このように発展と出かせぎは因となり果となりのいたちごっこをくりかえして前進がありません。

わが家の繁栄をはかろうとするものは、町の発展を進めてはならねばなりません。なぜなら、町の発展は直接自分の家の繁栄につな

「津奈木町一」を募る

日本一、世界一というように津奈木一なら何でも結構です。どうぞお教え下さい。

正月号原稿は一月十日ノ切
公民館宛

工場の誘致・海洋の開発は町発展の最たる焦眉の問題であります。（これについては後日発表の時があろうと思います。）

「私は何とかして津奈木を発展させようといろいろの対策に手をつけ、また計画もしています。どうぞ、自分の利益のみのことを考えず、町発展という大道に立って、共に一致して進んで下さるようお願いいたします。六千人の町民が一丸とならなければ人口減少の悲運から逃げることはできないと思います。

私は町政をとるにあたり、三つの目標を考えています。一つは「明朗」うそやごまかしをせず、明るくガラス張りの政治をしたい。二つ「協力」町民のご協力がなければ発展はあり得ません。これは町民のみなさんにお願いすることであります。

三つ「躍進」よいときまったら、右を見、左をうかがうことなく、思いきって目的に向かって猛進するということです。

どうぞ町発展のため、みなさんのご協力をお願いいたします。

津奈木方言チンナリタンナリ（五）

○アックワイスル（がっかりする）
○イイスル（共同でする）「イイ」は（結び）である。
○エイユ　（ぜいたく）「栄耀」
○カタリスル（交互にする）
○グワイ　（勝負なし）
○ゲェスル（こうする）ゲェセンカ（こうしないか）
○ジンゴスル（子供がすねる）
○テンスル（自分でする）
○テンゴスル（もてあそぶ）
○ビクシャクスル（びくびくする）ビックリシャクリスル
○ヘメコメスル（つつましやか過ぎる）
○ワンギスル（夫婦別れする）
○アッタラシカ（可惜、おしい）
○アラシカ（元気がよい）アラシカ男
○アヤンナカ（元気がない）アヤンヒッキレタ（息がきれた）
○アヤワシカ（か弱い）　あやうし
○イボンナカ　（意気地がない）
○イミシカ（まずい）　イミシカダゴ（うまくないダゴ）
○イナカ（よくない）　ソライナカ（それはよくない）
○イサッカ（勇ましい）　イサギナモン（いいね）
○イサギュウ（大へんに）
○イテギナカ（心苦しい）
○イマメシカ（子供がうるさくてつきまとうを……）
○エズラシカ（恐ろしい）
○オロイカ（良くない）　オロユウ　オロヨカ　オロガッタリ
○オナシコツ（同じこと）
○カバシカ（焼けて香のよい）　カバシカにおい
○カットシュウ（次々に、順々に）
○カッタルカ（きちんとする）　カッタルウ
○キシカ（緊縛）しまる
○キツカ（つかれる）
○キメクサカ（着物のこげるにおい）　きなくさい
○クセラシカ（なまいき、年に似あわぬ利口）
○グラシカ（むごたらしい　ざんこく）
○コヤラシカ（愛くるしい）コヤラシウ（親切に）

津南先生

岡松　壮

「玄庵にあとつぎがなかったので八代郡の医井上家より宗恕を養子に迎え、末女にめあわせた。「宗恕には幸いあとつぎができた。ここにいう津南先生で、即ち宗安である。幼名を仙寿といった。幼いころから大へん孝心が深かった。碑文には（君、おさなくして父母につかえ、孝あり）とだけあって具体的なことは書いてない。そこで、津南先生の子、玄門の孝行ぶりをもって推察してもらいたい。「玄門が十七才のとき、阿蘇神社に十ケ条のおがん（願）を立てて実行をちかった。その一つに「父母・祖父母にむかって一生腹を立てず、その命令に従って決して怠らず」というのがある。恐らく間違いなく実行されたと思う。」

「また、親の方には足をむけて寝なかったということも聞いている。最もおどろくことは、父、宗安をほうむった墓のそばに小屋を建てて、その小屋にね泊りすること三年、また母の死にあい、更に二年間、都合五年つづけたという。」

また、玄門―竜肇―長胤―清この清氏も長胤の墓のそばの家に泊っていたら、夜中に石がとんでくるので、恐ろしさに家に逃げかえったという話もある。実は青年のいたずらだった。

こういう深水家の親に対する家憲のようなものがあるのだから、宗安の孝行もきびしいものがあったろうと想像する。

性質は非常にやさしく、しとやか（温雅）で、人からも親しまれ尊敬された。後にも出てくるが、ひじょうに琵琶がすきで、いつも琵琶を抱いて、山や庭の間をまわりながら弾じたり吟じたりしていられたというのからして、温雅な人となりがうかがえる。

しかしおとなしい一面、学問上のことや医業のことになると、正しいすぐれた意見を出し、決して一歩も引かぬ強い固いところがあった。

ハワイ（二）

川崎一幸

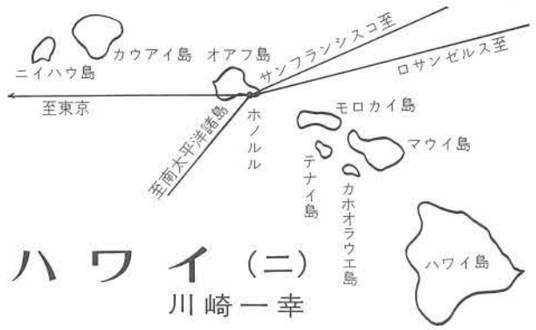
カウアイ島がはるか左前方の洋上に、まるで雲がうつした影の様に霞んだ姿を見せる頃から、機は少しづつ高度を下げ初める。高度六千から眺める南国の島々、中でもエイの形そっくりのオアフ島は、太洋の白浪にクッキリと型どられ、真珠湾の袋の様な入江の中に、フォード島が静かなたたずまいを見せている。

昭和十六年十二月七日未明、太平洋戦の戦端は、ここ真珠湾の奇襲から初められた。何か〝ゲット胸を打つもの〟がある。実に感慨深いゆかりの地である。

なだらかな山裾から海に林立するビル、清らかなワイキキの海辺を右に、湾の入口上空をかすめるように機体が沈んで行くと、真正面から滑走路がせり上ってくる。

着地したターミナルにはAloha Welcome Hawaiiの文字が大きく、機から降りて見上げると高くそびえている。コントロール・タワーにもアロハという歓迎の文字が見えて、暖かい南国の大気と共に旅行者は和らかな雰囲気に包まれるのである。

さて入国検査・検疫・税関の検査が終って空港ロビーに出る。他国なら両替所でドルを現地通貨に交換する必要があるが、ハワイはその手間が入らないのが便利、何時の場合でも検とか査とかの字のつくものは、一般にうるさいものだが、何なく通過した時は至極愉快なものである。こういう時おおむね、ばか正直と要領が肩代りする場合が多い。手荷物等は全部開いて見易くし、税関吏の手間を省く様にして、公明正大さを表現すれば、意外な程早く進む。



ロビーを出るとミニミニ姿の茶褐色の少女の群が、旅行者一人一人に生花造りのレイをいくれる。突然のキスにてれくさくて足がすくばる。色の黒い素足の歓迎はポリネシヤ種族の最高の礼儀だそうだ。色とりどりの服装をした旅行者、現地人、いとも見る目を楽しませる様にして、公明正大さを表現すれば、意外な程早く進む。

ロビーを出るとミニミニ姿の茶褐色の少女の群が、旅行者一人一人に生花造りのレイをいくれる。突然のキスにてれくさくて足がすくばる。色の黒い素足の歓迎はポリネシヤ種族の最高の礼儀だそうだ。色とりどりの服装をした旅行者、現地人、いとも見る目を楽しませる世界の肢体、そして顔、顔。まさしく人間模様の万国博である。ハワイヤンブルーの澄みきった空、降りそそぐ陽光、天をつくヤシの並木、葉裏を渡るそよ風、熱帯の花、花。ロビー前庭園は惜しげなく南国ハワイを力強く象徴している。

一口にハワイと言っても大小とりまぜ二三六以上の島からなっている。総面積は日本の四国に相当する。ハワイの人口は八十三万中約六十五万がホノルル市のある此のオアフ島に集中している。勿論その大半はハワイの表玄関ホノルル市にスシ詰だろうが、地方人口の大都市集中傾向は日本ばかりでなく今や世界的と言ってもよく、ハワイもまた例外ではなさそうだ。

以下次号

国勢調査

昭和四十五年十月一日に行われた国勢調査の結果をお知らせいたします。

五年前より千七十八人減りました。十年前からすれば、二千四十五人の減となります。年々津奈木の人口が減っていくのはさびしいことです。

各部落の男女比をごらん下さい。男が多いところは福浦、日当、辻だけです。三千五百十五人に女・〇四人、四十年には一・〇人、四十五年には一・六人と男が減少しています。これは何を物語っているのでしょうか。

部落名	年度	世帯数	男	女	計	比較
竹中	40	56	128	141	269	
	45	55	94	126	220	− 49
染竹	40	78	150	187	337	
	45	82	136	171	307	− 30
浜崎	40	99	171	219	390	
	45	91	144	181	325	− 65
桜戸	40	70	122	147	269	
	45	67	110	140	250	− 19
町中	40	50	94	112	206	
	45	59	100	126	226	+ 20
新川	40	95	187	204	391	
	45	90	132	155	287	−104
古川	40	83	164	181	345	
	45	79	121	143	264	− 81
大泊	40	113	256	257	513	
	45	108	196	222	418	− 95
中尾	40	108	236	259	495	
	45	86	159	180	339	−156
古中尾	40	40	99	115	214	
	45	54	112	131	243	+ 29
倉谷	40	71	179	185	364	
	45	67	143	148	291	− 73
内野	40	46	109	106	215	
	45	49	90	112	202	− 13
上下門	40	58	114	161	275	
	45	60	117	146	263	− 12
川内	40	37	81	115	196	
	45	34	62	80	142	− 54
福浦	40	57	160	142	302	
	45	58	132	118	250	− 52
平国上	40	64	150	190	340	
	45	66	126	176	302	− 38
平国下	40	125	294	285	579	
	45	116	238	242	480	− 99
日当	40	136	321	346	667	
	45	131	279	336	615	− 52
日添	40	137	328	322	650	
	45	137	288	289	577	− 73
小津奈木	40	76	183	203	386	
	45	81	159	175	334	− 52
辻	40	9	14	17	31	
	45	8	12	9	21	− 10
計	40	1,608	3,540	3,894	7,434	
	45	1,578	2,950	3,406	6,356	−1,078

文芸

短歌

鶴田　和子

○わが心和める朝は赤尾島をつつめる海の青も澄みたり
○静かなる入江にも白波の連なりて秋深まれば冷風はこぶ
○終日をはたらき疲れ米とぎぱ夜更けの庭にまつむしの鳴く

寺本ツルヲ

○いもがゆをすすりしことを思い出づ米を飼料なすてふ聞けば
○住む人はかわりたれども真向いの家にカンナの花は咲き継ぐ
○いくちとせ風にたえし千代塚の大松あわれ虫に枯れ果つ

一人五首　一月四日迄公民館宛

肥後狂句

堀　双岳選

分れ道手の痛かごつ握らしたとつけも無ァ肥後狂句ばやらすげな　　吞牛

分れ道ごちらが思案のしどころばい　　蘇拙

分れ道母ちゃんこるからおんぶして　　敬坊

とつけも無ァ百性に米作るなちゅう　　敬坊

とつけも無ァあのバスによう乗らだった　　溝口

とつけも無ァ俺が頭に来ん子の出来た　　名無

分れ道イヤァンちゅて逃げらした　　吞牛

勝負ありチャボの方がコケコッコ　　名無

勝負ありお先ィ子種仕込うどる　　渕上

分れ道しゃがみ込うで語りおる　　敬坊

とつけも無ァ刑事の財布すろうてち　　かたつむり

勝負あり踏みきっとった剣の峰　　双岳

勝負あり美ぼうと若さが物いうた　　双岳

次題「そるもよか」「えずらしか」一人五句　一月四日まで

しんせつ調査
―なさけは人のためならず―

『…一つの紙くずがおちていた。私はそのちりをひろった。ちり一つひろった私の心はうれしかった。

『…「ありがとう」といわれました。私は、おばあさんのうれしそうな顔をみて、ほんとうによかったなあ―と思いました。』

『…思いきって「君は大泊やろ、傘貸してやるよ」といったら、うれしそうに「あがと」と答えてくれました。』

―中略―

すると、さっきの男の子が走ってきて「ねえちゃん、母ちゃんがむかえにこらしたで、傘、ねえちゃんがさしていってよか」といって、お母さんのところへ走ってゆきました。

「姉ちゃん…」って呼んでくれたことが一番うれしかった。ごめんね、すぐに入れてあげなくて、と何べんも心の中で、あの子にあやまりました。ほんとうに入れてあげて、よかったなあと私は思います』

右のような、親切をして心がすがすがしくなる気持は、小学一年から中学三年生まで、みんながもつ共通の心のようです。ある生徒が、いみじくもいっています。

『…私は親切というものは、親切にされた人はもちろんですが、それをした人自身、うれしくなるもんだなあと思いました。』

感心なはなしがたくさんある中から、（親切調査）一・二ひろってあげてみました。

…私のうちのそばに川があります。その川はとってもきたなくなっています。ある夜、どこの人かわかりませんでしたが、かい中電器と、大きなふくろをもって、ガラスのかけらやきたないものを、とっていきました。

（二の一　荒木直美）

× ×

…私の友だちと歩いていたら、おじいさんが、寒いのに、ていりゅう所で、まだ四十分も待たなければならないのに、待っていられました。友だちが、よその家の人にたのんで、家の中に入らせてやりました。……

（二の一　伊藤直美）

× ×

…夏の暑い日に、年寄りの人がみかん畑の草を、一人でとっていられました。……自分の買うものとアイスクリームを買い、とけないうちにと急いで行きました。

私はそのみかん畑の年寄りにアイスクリームを食べさせましたらとても喜ばれました。

その時は、私もうれしくてたまりませんでした。たった十円でもあんなに喜んでもらえるとは……

（二の二　永里シズ子）

× ×

…先生が箱をもって、車の中に入れようとしたとき、ある生徒が、すかさず車のドアをあけてやったのには感心した。

（二の四　荒木美恵子）

× ×

…私はバレーの後衛です。ボールをアンダーでうけなければならないので、時々手のヘンなところにあたって、ヘンな方角に行ってしまうことがチョクチョクあります。……

そんなとき、みんなは、私がいない方がいいんじゃないか。と思って、後では私の方がいやになります。

そんなことがあったあるとき、Aさんが私をみて、ニッコリしました。それから私は始めて、「自分がいなくてはだれがやる」と思うようになりました。

ただニッコリしてくれただけで私は、ほんとうの自分の気持をはっきりさしたのです。――

（二の四　丁久美子）

心あたたまる話

小さな親切

大関 荒滝五太夫伝
（三）

林田義人

五太夫の古伝は、二百二十余年前のことで、調査は大へんでしたが、大関に昇進し、江戸深川八幡宮場所で全勝優勝即ち日本一の名遂げたことが実証されました。

私たちは、わが里のほこりとして、したい続けてゆきたいものです。

さて、五太夫の子孫は、大泊の佐々木兼光氏で、位牌も正しく安置してありますので、同家に求めて伝説の一篇を寄せてもらいました。

「私が聞いた五太夫のはなし」

佐々木しずえ

私がこの海べに住むようになった二十年前、今は亡き古老から五太夫の話を聞かせてもらったものです。多少眉つばものだと思いながらも、生き生きとして私の胸をはずませ、なつかしい先祖への夢をいだいたものです。

彼は幼いころからひようひようとし、のっそりとしていたとえらい怪力で人々を仰天させていた。七つ八つのころであったが、家の石垣をつぐ四・五人が、一つの石をもてあましているのを見て、鼻で笑った。人夫たちは腹を立て、六尺棒をふり上げ打とうとするとかえってはね返されて尻餅をついた。

「おるが、あすこの石をみんな運んでやるから、ほうびをたくさんくるるかな」というと、怪力におびえた人夫たちも、「オオ」と承諾した。

彼は見ているうちに大石を運び、並べてしまった。親方は約束どおり黒砂糖四斗樽をほうびにやった。彼は軽々と背にくくりつけて親方を従えて帰ったという。

抜群の力だけが取り柄の五太夫がいつものようにのうのうとねそべっているので、せめてこのことなりと、母親は

「五太夫、今日は夕立が来そうだから、空が暗うなったら庭の粟を早よう取り込むんだぞ、たのむぞ」

と、念を押して畑に出かけた。

案のじょう、空が真黒くなり、たちまちつぶてのような雨が軒をたたきはじめた。飛び起きた五太夫は、粟のことを思い出し、庭をみた。粟が雨にたたかれて、さかんにはね返っているのがおもしろく、彼はうで組みして坐り込んで見入った。彼はうなった。感嘆した。彼のひとみは、満足げにキラキラ輝いていた。

夕方帰った両親は、庭のさまを見て仰天した。むしろには粟はなく、溝をつくって流れ去っていた。

あきれかえっている両親に言った。

「ほれ、じいさんが、五百年も前の源平合戦の話ばよう聞かしたろ。そんいくさそっくりじやった。粟は勇ましう打ちはねて面白うてやっといくさの分ったばい」

とてつもない息子はやがて、相撲とりになった。

五太夫関の大きい位牌を抱いているのが四代目の末亡人のきのさん。向かって右が大関五太夫関の伝説を究明して正位につかしめた林田義人さんです。

御礼

㈠次の方から香典返しとして町社会福祉協議会へ多額のご寄付を戴きました。ご遺族の意志に添って社会福祉のため使わして戴きます。故人のご冥福をお祈り致しますと共に御礼申し上げます。

部落	世帯主	続柄	死亡者
上下門	門崎善太郎	妻	ツギエ
中尾	農山秀雄	母	ミツヲ

㈡桜戸の服部嘉子さん、元村あけみさん、永里トミ子さんの三人は、去る津小落成式の折、踊りのお花として戴いたお金を、町内の困っている方々のために使って下さいと町社会福祉協議会へ寄付されました。

◇成人式は一月四日・五日　◇三太郎駅伝は一月十日

町民体育祭
陸上大会

町民体育祭陸上大会は、体育の日の十月十日に、町民広場で行われた。

○各部落とも盛り上って、静かなる中にも気分は張り切って、競技に熱戦がくりひろげられた。

上下門、日添、日当の進出の目ざましさ、小津奈木、倉谷の根強さ、平国下の潜勢力のおそろしさ。

○今まで敬老席におさまっていた老人たちが、壮年に負けぬ活動ぶりに目を見はった。

○去年までは会後の掃除に苦労していたが、今年はわずかの手間できれいになった。これは全く部落の方々のご協力によるもので厚く感謝申し上げます。

○二万米のマラソンが到着しだしたので競技を中止して迎えた。しかし来るべき選手がこないので不思議に思っていると、競技中に三人揃って走ってきた。何を不真面目なことをするのかと思ったのが

昭和45年度町民体育祭総合成績

部落名	相撲	ソフト	バレー	野球	ペーロン	駅伝	卓球	陸上得点	陸上順位	総点	総合順位
竹中		6	10	12	6		9	8	13	51	12
染竹	1	14	12	7	9		11	7	14	61	6
浜崎	7	14	10	15			12	4	17	62	5
桜戸		6	10	11	3		9	3	18	42	13
町中		6	13	7	10		9	11	10	52	11
新川	8	14	6	7	6		9	10	11	60	8
古川	1	10	0	7	6		5	13	8	42	13
大泊	12	10	6	11	15	5	5	12	9	76	4
中尾	7	10	12	15	13	6	9	14	7	86	1
古中	11	6	6	7	13		5	6	15	54	10
倉谷	10	10	14	7	9	3	11	15	6	79	2
内野	9	6	6	7	14	2	5	10	11	59	9
上下門	1	6	10	15	9	4	13	20	1	78	3
川内								1	20	1	20
福浦								2	19	2	19
平上								5	16	5	18
平国下								16	5	16	17
日当				7				18	3	25	16
日添				11				19	2	30	15
小津奈木		14	6	11	13			17	4	61	6

有利な林業
―施肥について―

六車孝吉

「今回は林地肥培について述べます。

「日本の肥培育林は戦後大いにとり上げられて、東大の芝本教授の提唱による功績大なるものがあります。しかも遅効性で林地の土質改善もかね、初めは泥炭にまぜた固型肥料をつかったもので、着々とその効果を発揮してきました。現在民間数社から販売していますが、効果はいずれも大差ありません。

「施肥の一ばんよい方法は、植え穴をほって肥料を入れ、一ヶ月以上そのままにして、よく土になじんでから苗木をうえます。植えつけのとき肥料をやると、根がいたんで枯れやすいといいますが、前回に申した方法で植えますとほとんど枯れません。

「私は今年一万六千本植えつけ、一本あたり三〇グラム施しましたが、枯れたものはわずか二十本位でした。一番安全な方法は、植えつけ後約一ヶ月して施します。一年目には七〇グラム、時期は津奈木では一月旬をのがげば年中いつでも結構です。一回より二回三回とわけてやりますと尚効果があります。

「二年目は一年目の二割増約九十グラム、三年目はその二割増の一一〇グラム、三年後は密植の関係で林地が閉鎖されますから、除伐間伐、枝打ちをした時にやります。

また壮令樹のときは皆伐数年前に十分施します。例えば二十五年で皆伐するときは、二十年目に一町歩あたり五十俵、翌二十一年目には前年の六割の三十俵、三年目の二十二年には前年の六割の十八俵を施して施肥を終ります。二十五年の選定をあやまらぬようにします。肥料によって成長を早め、枝打ち適当な除伐、間伐によって品質の向上をはかり、密植します。

以上いろいろと申し述べましたが、皆様がご賛同されて、当津奈木地区全部がスギ、ヒノキの優良木の産地として名が高まりますと、各人が苦労して育てた樹が有利に販売できるようになります。一人二人がよい山を育てても意味がありません。

「国の林業政策は大山林地主や、パルプ会社、製紙会社、あるいは、一部大手商社のためのもので、われわれ零細山林地主のためには恩恵はありません。

年々多量の外材輸入によって、材木の値段は安くなっております。これからいろいろな悪条件のもとでは、伐期の短縮、品質の向上、造林費の節約によって対応してゆくほかありません。即ちスギ、ヒノキともに小径木を目標とし、約二十五年で皆伐するために、樹種

旅して思う

秋芳洞よろし、九州横断道路なおよろし、芦北海岸は更によろし。

昭和四十五年十一月一日から三日にかけて旅行しました。

秋芳洞のこと

私はエレベーターから下って洞内に入って穴の大きいのに圧倒され、天井や周囲の千変万化の自然の彫刻に驚異の眼をみはった。多数の人々と、足もとを照らす電灯とに勇気づけられて下ったものの、やはり怪異で気味の悪さをかくすことはできなかった。私は何度も「来てよかった。見てよかった。見る価値十分」と同行の人にいった。そして数知れぬ観光客の落す金によっての、町のうるおい工合を想像してうらやましかった。

九州横断道路のこと

日本三景の一という宮島に渡って参拝したが、やはり人工の美は限りがあってあまり感激はしなかった。

四国からフェリーで渡り、別府のラクテンチでアヒルの競走ともみて、午後三時半から横断道路にかかった。何といっても九重連山の間を抜けるあたりの眺めはすばらしい。千七百米級の九住、九重、三俣の山々が左にそびえ、右にも泉水、黒岩、猟師の山々が圧している。しかも山全体が黄色く地肌を色どり褐の林が黄赤ともみじして、遠く近く見える景色は、秋芳洞を百もってきても追いつかぬと思った。そして下って外輪山の高原の起伏した飯田瀬ノ本高原の広大なること、満州は知らないが、満州もかくやと思う。城山に来て、阿蘇谷を眺めた景色もまたすばらしく、気が広く大きくなるようだ。

芦北海岸のこと

秋芳洞よし、九州横断道路は更によし。しかし物足らぬのは水のないことだ。その点からいえば芦北海岸は山あり水ありで、両方を兼ねそなえている。

私は旅に出て、秋芳洞に比べ、九州横断道路に対し、芦北海岸がこれらに勝るとも劣るとは少しも思わぬ。秋芳洞が天下の客を集め、九州横断道路が全国のドライバーを呼んでいるように、芦北海岸も山に物足らぬ天下の客を集める日の一日も早からんことを願うものである。

（岡松）

青年団便り

青年総合全国大会に熊本県代表として赤崎の川上よし子さんと林田直美さんが、十一月十一日から十三日まで行われた全国大会に生活部門で参加しました。

参加出品物は先日本渡市で行われた県大会で一等をとった改良作業着でした。改良の要点は、スラックスには胸あてをつけてボタンで付け外しのできるようにした。前掛けはレインコートの廃品で防水力を利用した、などで見かけもよく実用的でもすぐれているとの評でした。

当青年団では、これを機会に団結をはかりたいと思っています。

○**町民広場とはどこか**　もとの津奈木小学校のあとです。水泳プールあり、夜間にソフトボールとかバレーボールなどやれるような電灯設備がしてあります。

○**二宮尊徳像**　津奈木小学校に二宮尊徳の像がありますが、その台石に彫りつけてある字は井上桂園先生の書です。先生は小中学校の書方手本を書かれる有名な方です。

○**記念樹**　千代塚の西の端の松は、浩宮のご誕生記念に植えたもの。昭和三十五年二月二十三日のことです。